

奥州市立水沢中学校改築基本構想及び基本計画（案）

8.31 版

目次

第1章 施設整備の現状と課題

1－1．計画策定の経緯と目的	．．．．1
1－2．上位計画の整理	．．．．2～4
1－3．学校の沿革と特色	．．．．5～7
1－4．通学区域	．．．．8
1－5．生徒数の推移と予測	．．．．9～10
1－6．施設の現況	．．．．11～12
1－7．現況記念品、モニュメント、記念樹等	．．．．13～16
1－8．アンケートの分析	．．．．17～19

第2章 地域特性、計画条件の整理

2－1．敷地の概要	．．．．20
2－2．法規制等の条件	．．．．21

第3章 施設整備の基本構想

3－1．基本構想	．．．．22～23
----------	-----------

第4章 施設の基本計画

4－1．施設の機能・規模	．．．．24～26
4－2．配置計画の検討（配置・工期・コスト）	．．．．26～32
4－3．平面計画の検討	．．．．33～37
4－4．検討結果・今後の課題	．．．．38～39

第5章 参考資料

5－1．学校アンケート調査

- (1) 教職員用
- (2) 保護者用
- (3) 生徒用

【第 1 章】施設整備の現状と課題

1－1．計画策定の経緯と目的

・計画策定の経緯

水沢中学校（以下「本校」という。）は、進んで学び生活規律を守る「自主」、自分の言動に責任をもつ「責任」、協力を惜しまず助け合う「協力」という校訓と教育目標のもと、挨拶と学び合いを大切にして児童育成を行っている。

現在の校舎は、主に昭和 38 年から 40 年に建設されたものであり、その後、児童数の増加にあわせた増改築や、耐震補強を含む大規模改造事業が行われ現在に至っている。

しかし、多くの建物が建築から 50 年以上経過し、いずれも躯体、設備共に老朽化が著しく、また、一部に耐震基準を満たしていない棟もあること等の課題が生じている。

このため、平成 29 年度に策定された奥州市総合計画においては、現地改築が計画されており、令和元年度から改築事業に係る基本計画策定に着手した。

・目的

「奥州市立水沢中学校改築基本構想・基本計画」（以下「本基本構想・基本計画」という。）は、本校の改築にあたり、地域などの意見を踏まえながら、学校に求められる機能・役割を再整理し、改築事業の実施に向けた条件を整えるとともに、良好な教育環境づくりと、安全・安心で、地域に開かれた学校を実現するための基本方針と考え方をまとめ、示すことを目的とする。

1－2．上位計画の整理

・策定の基準

本基本構想・基本計画は、国の第3期教育振興基本計画、岩手県教育振興計画（2019年度～2023年度）、奥州市総合計画（2017～2026）、奥州市教育振興基本計画（第2期）等の上位・関連計画を踏まえて策定するものとする。

以下に、各上位・関連計画の要約を示す。

（1）第3期教育振興基本計画（国）（2018年度～2022年度）

教育振興基本計画は、教育基本法（平成18年法律第120号）に示された理念の実現と、我が国の教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、同法第17条第1項に基づき政府が策定する計画であり、平成30年6月に第3期の教育振興基本計画が閣議決定された。

同計画では、下記の5つの基本的な方針が示されている。

<5つの基本的な方針>

- ①「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」
- ②「社会に持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」
- ③「生涯学び、活躍できる環境を整える」
- ④「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」
- ⑤「教育政策推進のための基盤を整備する」

（2）岩手県教育振興計画（2019年度～2023年度）

この計画は、国の第3期教育振興基本計画を踏まえ、岩手県における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として策定されたものである。

「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を基本目標に、「学校教育」と「社会教育・家庭教育」を二つの柱として、それぞれの「目指す姿」の実現に向け、教育関係者等の力を結集してその実現に一体となって取り組むとされている。

①「学校教育」における目指す姿

子どもたちが、地域とともにある学校において自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付ける。

②「社会教育・家庭教育」における目指す姿

県民が、主体的・相互的に連携し、助け合うことにより、家庭の教育力の向上に

努めるとともに、地域課題の解決に向けた取組や、文化芸術・スポーツ活動などへの参加により、生涯を通じて楽しく学び、生き生きと生活する。

（３）奥州市総合計画（2017 年度～2026 年度）

地方自治法に基づき、本市が策定した行政運営の総合的な指針となる計画であり、教育については、以下のように定めている。

「学ぶことが奥州市の伝統であり未来である」という教育理念を実現するため、未来を担う子どもたちが、豊かな心を持つとともに、創造力に富んだ人材として成長することを目指した教育を実践し、児童生徒が「生きる力」を育むまちを目指す。

①「生きる力」を育む学校教育環境の充実

1) 学校教育の充実

全ての児童生徒に確かな学力と学びの機会を保障し、「生きる力」を育むため、学校経営の充実を図りながら、知・徳・体のバランスのとれた学校教育を充実させる。また、経済的理由により小・中学校での学習に支障をきたす世帯に学校経費の一部を支援するとともに、義務教育より上の教育に就くことが困難な人に対しては、奨学金を貸与して修学の機会を確保します。併せて市学校法人への支援を行い、私立学校教育の振興を目指す。

<具体的取り組み>

- ・ 確かな学力を保障する教育の充実
- ・ 心の教育の充実
- ・ 健やかな体を育む教育の推進
- ・ 幼少連携の充実
- ・ 特別支援教育の推進
- ・ 適正規模による学校再編の検討
- ・ 学校法人への支援推進
- ・ 就学支援の充実

2) 安全・安心な教育環境の充実

児童・生徒に快適な教育環境を提供し、安全・安心な学校生活を確保する。

<具体的取り組み>

- ・ 教育関係施設の改築事業と耐震化の推進
- ・ 安全に配慮した施設の管理と整備
- ・ 快適な教育環境の整備

（４）奥州市教育振興基本計画（第２期）

本市では、2017 年から向こう 10 年間の教育振興基本計画を策定しており、市民と一体となって計画の推進を図るため、教育の現状と課題を分析したうえで、目標と基本理念を以下のように定めている。

- ・目標とする教育の将来像　－新しい奥州を担う人づくり－
まちは「人」により支えられ、「人づくり」は家庭教育、幼児教育に始まり学校教育、社会教育に引き継ぐ生涯にわたる学習の中で育まれる。「学び」を通して豊かな人生を送ることができ、「学び」で培った広い視野を地域の視点での発想に生かすことができ、地域課題の解決に意欲と責任を持って行動できる「新しい奥州を担う人」の育成を、学校、地域、行政などの有機的な連携・協力体制を構築して目指していく。
- ・基本理念と施策の基本方向　－学ぶことが奥州市の伝統であり未来である－
奥州市の発展の源は、先人後藤新平のことばどおり、「一に人、二に人、三に人」と考え、奥州市には、「学ぶこと」を真摯に実践するという伝統がある。
この「学び」の伝統を生かし未来に向けてさらに発展させるため、子どもたちの健全育成を主軸に、市民こぞってかわり、市民自らも育つ図式を創っていく。
- ・目標とする教育の将来像を達成するための重点目標　－知育・徳育・体育の向上－
目標とする「新しい奥州を担う人づくり」を達成するための重点目標を「知育・徳育・体育の向上」と定める。
教育に対する社会全体の連携強化を図るため、目的意識を共有し役割分担を明確にした官民一体の推進体制の構築を進める。

1－3．学校の沿革と特色

・学校の沿革

昭和 22 年	1947 年	4 月 1 日	水沢町立水沢中学校が発足
			佐倉河村立佐倉河中学校が発足
昭和 29 年	1954 年	4 月 1 日	水沢市施行に伴い水沢市立となる。 水沢中学校から常盤中学校が分離
昭和 37 年	1962 年	4 月 1 日	水沢中学校と佐倉河中学校を統合し、水沢市立水沢中学校が発足
昭和 38 年	1963 年	4 月 1 日	校章、バッジを制定 9 月 1 日校歌を制定
昭和 39 年	1964 年	5 月 10 日	新校舎へ移転
昭和 41 年	1966 年	3 月 10 日	体育館完成
昭和 45 年	1970 年	6 月 27 日	プール完成
昭和 47 年	1972 年	11 月 11 日	統合 10 周年記念式典を挙
昭和 50 年	1975 年	10 月 6 日	校旗が制定され、樹立式を行う
昭和 57 年	1982 年	11 月 6 日	統合 20 周年記念式典を挙
平成 4 年	1992 年	11 月 7 日	統合 30 周年記念式典を挙
平成 8 年	1996 年	6 月 20 日	プールの改修工事が完了
平成 14 年	2002 年	11 月 9 日	統合 40 周年記念式典を挙
平成 18 年	2006 年	2 月 20 日	合併による奥州市誕生により奥州市立水沢中学校になる
平成 24 年	2012 年	11 月 4 日	統合 50 周年記念式典を挙

・学校の特色

校訓	進んで学び生活規律を守る生徒【自主】 自分の言葉に責任をもつ生徒【責任】 協力を惜しまず助け合う生徒【協力】
道標 一 目指してほし い 生徒の姿一	学 学ぶ意識を理解し、学びの場面で聞き合い、わかる喜びを実感する 礼 礼節があり、時間を守り、清掃、あいさつがしっかり行える 健 心身の健康の保持増進に努め、かけがえのない命を大切にする 挑 失敗を恐れず、自己実現を図ろうとする意欲をもって挑戦する
学校づくりの 三つの柱	1. 温かい心で仲間や地域に接し、社会や地域の明日を担う生徒を保護者や地域と連携して育てる。 2. 生徒が互いにに関わり合いながら、新たな自分と出会える、1つ上の自分を創る教育活動を展開する。 3. 「生きる力」を確実に身に付け、未来を切り開く生徒を育てることを目指す。
研究主題	一人一人の学びを保障する授業改善 ～個々の力を高め合える学び合いを求めて～

水沢中学校 まなびフェスト

目指す生徒の姿	学校では	家庭では
自ら学ぶ習慣・ 意欲に満ちた生徒	・ 自分に合った学習方法がわかり、自分で学習を進め、わからないところは授業や学校で解決できる学びのルーティーンの定着を図ります。 ・ 家庭学習習慣（1・2年 90分、3年 120分以上）の定着を目指します。 ・ 読書活動を継続・推進し、集中力、思考力、発表力を育てます。	・ 家庭学習習慣形成のため関心を払い、学習を促し、また、励まします。 ・ 長期休業を含め、年間の読書冊数が30冊以上になるよう、家庭でも読書の奨励に努めます。

思いやりと生命を尊重する生徒	・ 「自己・他者・人間」理解を促して、道徳的心情や実践意欲を高める道徳教育を行います。 ・ いじめを許さない、互いに認め合い高め合える学級経営、全校取組みを進めます。 ・ ルールとマナーを守り、自他の生命を守る自転車利用の指導に努めます。 ・ 防災意識を高めます。（避難訓練の活用）	・ 毎日決まった手伝いなど、家族の一員としての役割を担わせます。 ・ 親子・家族のふれあいを深めます。（一緒に食事、一緒に仕事、一緒に余暇等、時間・空間・爽快感の共有を。）
夢に向かって邁進する生徒	・ 3年間をとおして、系統的なキャリア教育の推進に努めます。 ・ 生徒会活動をとおして、自律と貢献の心を育てます。 ・ 情報モラルを含め社会生活上のルール遵守と、自他尊重の自己表現ができる生徒の育成を目指します。 ・ 読書を通じ、将来への視野を広げます。	・ あいさつ・服装・態度面、基本的生活習慣の確立に目を配ります。 ・ 職業観や将来の進路について話し合います。 ・ 地域行事、活動への参加を促し、地域の一員としての自覚を高めます。
進んで心身を鍛える生徒	・ 生徒個々が目標を決めて取り組める部活動の展開を図ります。 ・ 「体力・運動能力調査」の総合評価（5段階A～E）が、A・B・C段階の生徒を増やします。 ・ 健康課題の改善のため計画的、また適時性のある保健指導を実施します。 ・ 防犯・事故防止の啓発に努めます。	・ 「早寝 早起き 朝ご飯」の習慣化を図ります。 ・ 運動をとおしてふれあいの機会を作ります。 ・ テレビ等視聴やゲーム等のメディア利用は合わせて90分以内とします。

1-4. 通学区域

大手町西、大手町東、川原小路、上町、上町南、吉小路、新小路、日高小路、日高南、大畑小路、袋町、南町、東町、横町、中央通り、駅通り、青葉町、寺小路、春日町、三本木、大町、柳町、立町、勝手町、川口町、不断町東、不断町西、北下巾、石田西、石田北、石田南、栃の木、上幅、一本木、八幡、谷地、佐野、十文字、松堂、宮田、仙人



1－5. 生徒数の推移と予想

■奥州市における学校規模の現状と課題

1. 児童生徒数の変化

	平成20年度 2008年度	平成30年度 2018年度	令和6年度 2024年度
小学校 (h20年との比較)	7,010人	5,678人 (－1,332人)	4,874人 (－2,136)
中学校 (h20年との比較)	3,885人	2,949人 (－936人)	2,749人 (－1,136)
合計 (h20年との比較)	10,895人	8,627人 (－2,268人)	7,623人 (－3,272)

2. 平成30年度通常学級の児童生徒数・学級数の最大と最小

	小学校		中学校	
	最大	最小	最大	最小
児童生徒数	692人	8人	551人	4人
学級数	23学級	2学級	17学級	1学級

3. 平成30年度学校規模別の学校数

学級数	1～5学級	6～11学級	12～18学級	18～24学級
小学校	10	11	2	4
中学校	4	0	6	0

4. 学校規模の課題

- ・平成20年度と比較すると、平成30年度は約20%減、令和6年度は約30パーセント減と大きな減少が予想される。
- ・1校当たりの児童生徒数、学級数ともに学校間の差が大きい状況となっている。
- ・5学級以下の学校が、小学校で10校、中学校では4校となっている。

■水沢中学校における学校規模の現状と課題

1. 児童生徒数の変化

	令和2年度学級数	令和2年度生徒数	令和6年度生徒数
	2020年度	2020年度	2024年度
水沢中学校	15学級	466人	401人

2. 令和2年度学級編成表（令和2年4月現在）

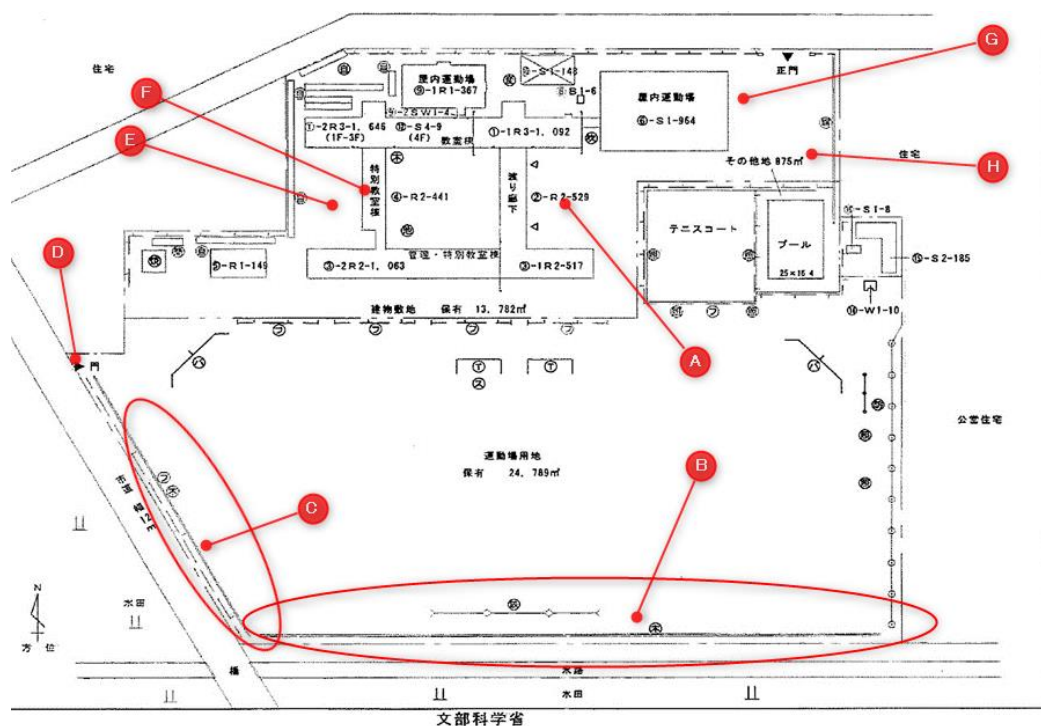
	通常の学級			特別支援学級		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
水沢中学校	156人	155人	155人			
				2人	4人	1人
	5学級	5学級	5学級	3学級		

1-6. 施設の現況

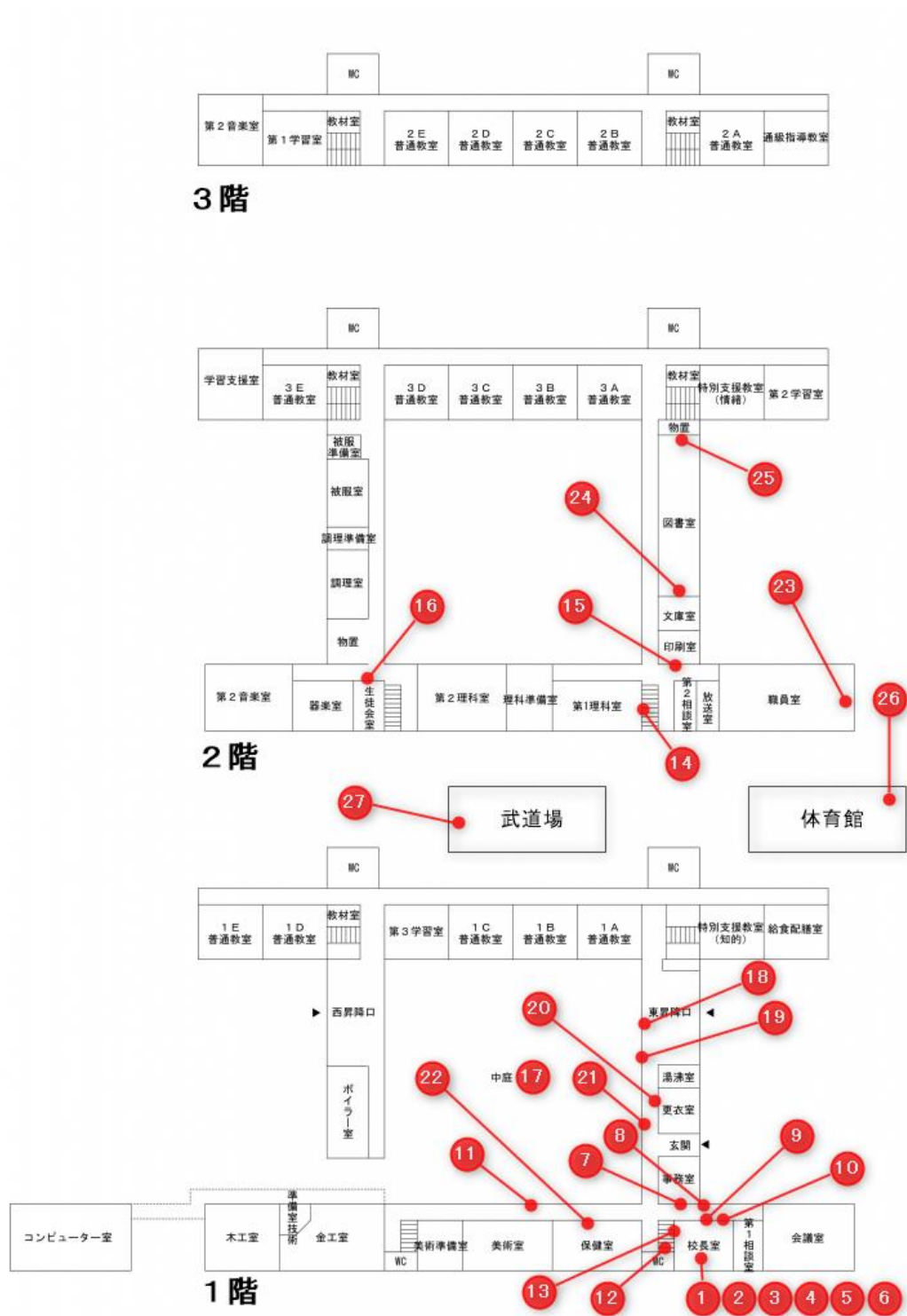
- 【敷地】 奥州市水沢南丑沢 10 番地 1（現奥州市立水沢中学校敷地）
 【敷地面積】 約 39,446 m²（校地 13,782 m²、グラウンド 24,789 m²、その他 875 m²）
 【主な建築物】 校舎 5,449 m² 建築年度：昭和 38 年（1963 年）

本校の多くの建物は、築後 50 年以上が経過し、老朽化が著しく進んでいる状況である。新耐震基準以前の建物が多く存在し、耐震補強は行われているものの、大規模改修からすでに 30 年以上経過しており、再整備が必要となっている。また、近年の教育内容の進展や社会的な変化、生活様式の変化等に対応するためには、多様な学習形態や弾力的な活動を可能にするとともに、ICT 環境の充実や冷暖房設備の完備など、良好な施設環境の確保が必要となっており、建物の全面的な改築が急務であると思われる。

水沢中学校 配置図



水沢中学校 平面図



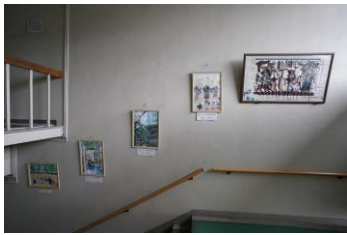
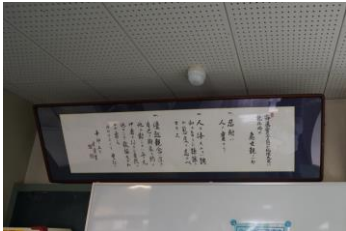
1-7. 既存の記念品、モニュメント、記念樹等の状況

[外部]

		
A 第10回卒業生記念品	B 第9回卒業生植樹ポプラ	C 第9回卒業生植樹ポプラ
		
D 第30回卒業生記念品	E 西門モニュメント	F 第29回卒業生寄贈
		
G 統合十周年記念像「歯車」	H 統合二十周年記念碑	

[内部]

		
1 校長室内扁額	2 校長室内扁額	3 校長室内扁額
		
4 校長室内記念品等	5 校長室内記念品等	6 校長室内記念品等
		
7 絵画	8 統合前各校校歌	9 絵画・賞状等
		
10 絵画・賞状等	11 姉妹寄贈品等	12 トロフィー等

		
13 壁画	14 絵画	15 絵画
		
16 航空写真	17 中庭	18 第31回卒業生寄贈・優勝旗
		
19 トロフィー等	20 五十周年記念航空写真	21 中目義寿さん寄贈
		
22 表彰状	23 職員室内扁額	24 図書室内扁額

		
25 図書室内扁額	26 第 6 回卒業生記念品	27 武道場扁額（完成記念品）

1-8. アンケートの分析

水沢中学校改築にあたり、利用者や関係者からの意見を抽出し、施設計画に反映することを目的とし、「中学校生徒」「中学校生徒の保護者」「中学校職員」「学区域の地域住民」「水沢小学校及び佐倉河小学校の5・6年生児童」を対象にアンケート調査を行った。

〈対象者延べ9,352人にアンケートを送付し、うち1,202人から回答を得た。回答率は12.9%だった〉

調査期間：令和2年1月22日から2月7日まで

対 象 者：(1)水沢中学校生徒 466人

(2)水沢中学校生徒の保護者 466人

(3)水沢中学校の教職員 51人

(4)学区域の地域住民 8,059世帯

(5)水沢小学校及び佐倉河小学校の5年生及び6年生の児童 310人

※アンケート詳細は、本基本構想・基本計画「第5章参考資料」参照

【質問1】新しい水沢中学校は、どんな学校が良いと思いますか。		
	回答数	
① 水辺や緑など、自然が感じられる学校	433	12.1%
② 部活動や体育をのびのびと行える学校	729	20.4%
③ パソコンやタブレットなどの機器が充実している学校	683	19.1%
④ 学校と地域の交流が深められる学校	197	5.5%
⑤ 犯罪や施設の安全性が配慮されている学校	619	17.3%
⑥ 自然エネルギーの利用など、地球環境に配慮した学校	320	9.0%
⑦ 地域の防災拠点、避難所としての役割を担う学校	381	10.7%
⑧ 生涯学習・スポーツ活動や地域コミュニティ活動の場としての学校	164	4.6%
⑨ その他	45	1.3%

【質問1の考察】

体を動かしての活動と、パソコンやタブレット等のICT活用学習に対して関心の高い結果となった。また、防犯性・安全性に対しても要望が多く上がっている。

【質問2】新しい水沢中学校で、より充実させたいものはなんですか。		
	回答数	
① 普通教室	609	17.4%
② 理科教室	110	3.2%
③ 生活を相談する部屋	94	2.7%
④ 音楽教室	47	1.3%
⑤ 技術科教室	69	2.0%
⑥ 家庭科教室	28	0.8%
⑦ コンピュータ教室	291	8.3%
⑧ 図書室	311	8.9%
⑨ 特別支援教室	67	1.9%
⑩ P T A 室	8	0.2%
⑪ 屋内運動場（体育館）	602	17.2%
⑫ 運動場（グラウンド）	467	13.4%
⑬ プール	223	6.4%
⑭ 駐車場・送迎スペース	359	10.3%
⑮ 植栽・樹木	134	3.8%
⑯ その他	73	2.1%

【質問2の考察】

最も過ごす時間の長い普通教室や、のびのびと活動できるグラウンド・屋内運動場の充実を望む声が多かった。また、駐車場・送迎スペース拡充についての要望も上がっている。

【質問3】新しい水沢中学校で、より充実させたい内容はなんですか。		
	回答数	
① 学年・学級の垣根を超えた共有空間	261	7.5%
② 自ら学ぶ、主体的に学ぶための学習空間	339	9.7%
③ 教科の充実を図るための機能的な教室	292	8.4%
④ I C T 教育を推進するための施設整備	559	16.0%
⑤ 心をいやし、心を育てるカウンセリング機能	241	6.9%
⑥ 快適な生活空間	478	13.7%
⑦ 屋内・屋外運動場の充実	514	14.7%
⑧ 学校の歴史、思い出を伝えること場所の整備	66	1.9%
⑨ 環境に配慮した学校施設	229	6.6%
⑩ 学校開放や生涯学習の場	40	1.1%
⑪ 地域のコミュニティの活動や交流の場	66	1.9%
⑫ 防災・防犯に優れた施設整備	381	10.9%
⑬ その他	19	0.5%

【質問3の考察】

前項から引き続き、ICT教育推進、屋内・屋外運動場の充実、快適な生活空間等の要望の他、主体的に学ぶ空間に対しての要望が上がっている。

【質問4】水沢中学校の改築に関する御意見（自由記載）

(1) 生徒

老朽化の激しいトイレや更衣室についての改善要望が最も多い。その他には冬の防寒についての要望もあり、特に廊下や屋内運動場の冷暖房完備・渡り廊下の屋内化、グラウンドの水捌け改善についても要望が多かった。

(2) 保護者

生徒や先生が過ごしやすく学習環境に配慮した計画を望む声と共に、具体的な要望として、冬季の送迎や行事の際の駐車場利用改善と拡充に対する意見が多かった。

(3) 教職員

生徒達が安全・安心して過ごせる快適な空間として、現場目線の多岐に渡る意見が集まった。ICT活用等の先端教育以上に、ソフト面や個別に配慮しなければならない生徒達に柔軟に対応できる空間の要望等が上がった。

(4) 地域住民

教育の場に相応しい外見やユニークな校舎として魅力のある建物や木造化、外構植栽、県産材の利用、等の練られた計画を望まれた。一方でスピード感を持った早期建設や斬新・多機能とすることでのコスト増を懸念する声も上がっていた。他には地域コミュニティーの一旦を担う役割も期待されている。

(5) 小学校児童

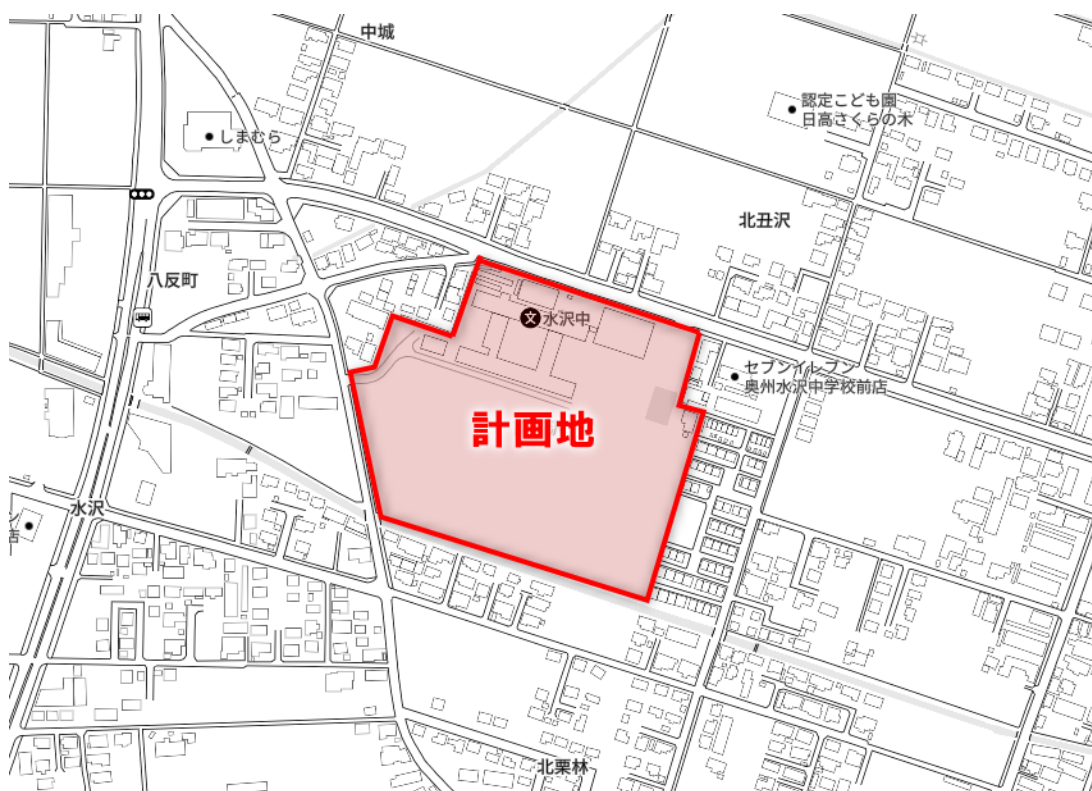
広く明るい過ごしやすい学校と、草木や生き物等の自然にあふれ、環境にも優しい施設づくりについて要望が上がっていた。

第2章 地域特性、計画条件の整理

2-1. 敷地の概要

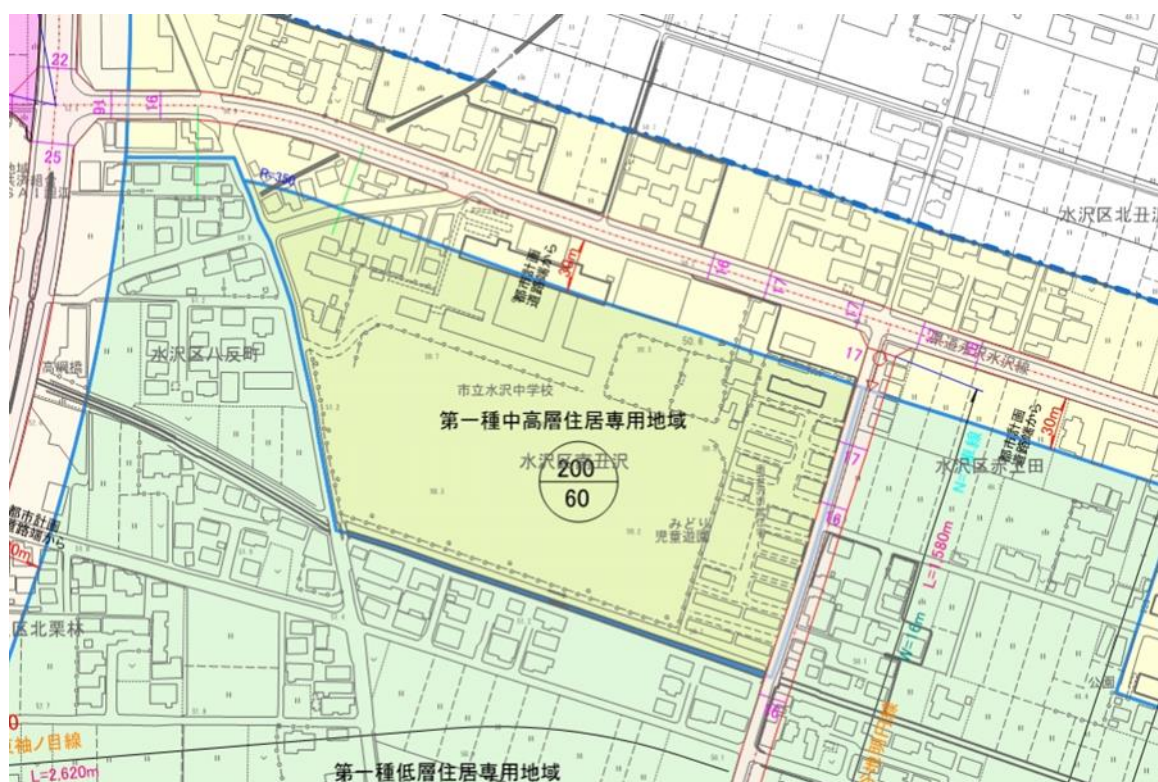
本市は、岩手県の内陸南部に位置し、北は北上市・西和賀町・金ケ崎町・花巻市、南は一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西は秋田県に接している。

総面積は993.30平方キロメートルと広大で、東西に約57キロメートル、南北に約37キロメートルに及ぶ。地域の中央に北上川が流れており、北上川西側には胆沢川によって開かれた胆沢扇状地が広がり、水と緑に囲まれた散居のたたずまいが広がっている。奥州市最高峰の焼石岳（1,548メートル）を主峰とする西部地域の焼石連峰は、ブナの原生林が多く残されている。また、北上川東側には、種山高原、阿原山高原が連なる北上山地が広がり、地域全域が緑あふれる豊かな自然に恵まれている。



2-2. 法規制等の条件

【敷地の場所】	奥州市水沢南丑沢 10 番地 1（現奥州市立水沢中学校敷地）
【敷地の面積】	約 39,446 m ² （現奥州市立水沢中学校敷地）
【用途地域】	北側道路（都市計画道路）端から 30m が「第一種住居地域」 上記以外の敷地は「第一種中高層住居専用地域」
【防火地域】	指定なし（建築基準法第 22 条地域）
【建ぺい率/容積率】	60%/200%



第3章 施設整備の基本構想

3-1. 基本構想

本章では、第1章の「施設整備の現状と課題」、第2章の「地域特性、計画条件の整理」、及び「文部科学省中学校整備指針」等を踏まえ、本校の歴史や文化を継承するとともに、近年の教育内容・教育方法の変化や学校施設を取り巻く課題に対応する施設環境を整備するために、次に挙げる4つの基本方針を軸とした基本構想を策定する。

基本方針1 水沢中学校らしさと伝統を守り受け継ぐ学校

- ・ 水沢中学校の歩みと伝統を学び、受け継ぐための場を整備する。
- ・ 水沢中学校の校風を育む土壌である水沢地域の歴史と文化を学ぶことができる空間を整備する。
- ・ これまでの水沢中学校施設が持つ優れた部分やイメージを継承した施設を整備する。
- ・ 学校づくりを通じて、木の文化の継承及び森林保全や環境問題等に関する学習機会の確保と、木の温もりを感じられる豊かで快適な学習環境を形成するため、学校施設への木材利用に配慮する。

基本方針2 生徒を第一に考えた学校

- ・ 生徒の自主性を最大限に活かして、学習成果や自主的活動の発表・展示ができるスペースの充実を図る。
- ・ 国が進める「GIGAスクール構想」等の整備方針に対応し、ICT教育環境を整備すると共に、図書室とPC教室を連携させる等により、読書、情報活用及び学習支援機能が融合した場を整備する。
- ・ 1クラスだけではなく、複数クラスや学年で学習活動ができる空間を確保する。
- ・ 特別支援教室や少人数クラスなど、様々な生徒に柔軟に対応できる空間を確保する。
- ・ 室内は日照、通風、採光に配慮した上で空調設備を整備する。また、トイレは明るく清潔感のある空間とする。
- ・ 築年数の古い体育館や水捌けの悪いグラウンド等の問題を解消し、授業やクラブ活動への意欲や向上心を育む運動施設を整備する。
- ・ 配置計画において、安全かつ効率的な動線確保と有効な敷地利用ができるよう、十分な敷地の確保及び校舎階数や体育館・武道場等、建物の構造、配置に配慮する。

基本方針3 教職員・保護者・地域住民とのつながりを大切にした学校

- ・ ICT教育をはじめ、多様化する教育現場に柔軟に対応し教えられる学校を整備する。

- ・ 地域にとって最も身近な公共施設として、P T A活動の拠点や生涯学習の場として地域を繋げる架け橋となる空間を整備する。
- ・ 校内に十分な駐車スペースと、安全な車両動線を確保する。
- ・ 運動施設などの学校施設の開放にも利用しやすい動線を持つ計画とする。
- ・ 教師の協働や地域との共同を促し、執務の充実やコミュニケーションが取りやすい管理諸室を整備する。

基本方針4 安心・安全で地域の核となる学校

- ・ すべての人が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、スロープ、手すり、トイレ等のバリアフリー化はもちろんのこと、すべての人に使いやすいユニバーサルデザインを取り入れた計画とする。
- ・ 不審者の侵入防止や死角を極力減らすなど、セキュリティを確保した計画とする。
- ・ 災害時には地域の避難所としての役割を担うことから、高齢者や障がい者を含む多様な住民の利用を想定した施設計画とし、十分な備蓄ができる倉庫等も計画する。
- ・ 安全性・快適性を長期的に維持すべくメンテナンスのしやすい建物とする。
- ・ 新型コロナウイルス等感染症対策に対応し、十分な換気とスペースの確保ができるよう配慮する。

【第4章】施設の基本計画

4-1. 施設の機能・規模（必要諸室の算定）

現在の各諸室の利用状況や不足状況を踏まえ、近隣同規模の中学校の諸室数・利用状況も参考にし、必要諸室の種類や室数、配慮事項を次のとおりとする。なお、普通教室数については、今後生徒数減少が予想されるが、ゆとりを持った教室数を確保するために現在の教室数と同じとする。

※1 コマ当りの大きさは「普通教室 $8\text{m} \times 9\text{m} = 72\text{m}^2$ 」を想定とする。

機能	NO	室名	コマ数	室数	配慮事項
普通教室	1	普通教室	1	15	・ 学年単位の活動を考慮し、同一学年の教室は同じ階に配置する。 ・ 学習を補助する十分な収納スペースや掲示スペースを確保する。 ・ ICT対応に支障の無い室内空間とする。
	2	教材室	0.25	3	・ 学年単位で1室設ける。 ・ 普通教室付近に配置する。
	3	多目的スペース	2	3	・ 学年単位で1室設ける。 ・ 普通教室付近に配置する。 ・ 学年単位で集まれる広さを確保する。 ・ 生徒数増加による教室不足の際は拡張スペースとして活用する。
	4	特別支援教室	1	2～3	・ 現状通り2室を確保する。 ・ 今後柔軟な対応ができるよう3室目について検討。
特別教室	5	第一理科室	1.75	1	・ 学習に必要な設備機器を整備する。 ・ 十分な換気を設け安全に配慮する。
	6	第二理科室	1.75	1	
	7	理科準備室	0.75	1	・ 第一、第二、どちらへもアクセスできる配置とする。
	8	音楽室	1.75	1	・ 室内音響や、他の教室への影響を十分配慮する。 ・ 大型の楽器が十分収納できるスペースを確保する。
	9	楽器庫	0.75	1	
	10	家庭科室（被服）	1.75	1	・ 学習に必要な設備機器を整備する。 ・ 十分な換気を設け安全に配慮する。 ・ 調理室は災害対応時の利用も考慮する。
	11	家庭科室（調理）	1.75	1	
	12	家庭科準備室	0.75	1	・ 第一、第二、どちらへもアクセスできる配置とする。
	13	技術室	1.75	1	・ 十分な作業スペースを確保する。 ・ 十分な換気を設け安全に配慮する。 ・ 工具や材料が十分収納できるスペースを確保する。
	14	技術準備室	0.75	1	
	15	美術室	1.75	1	・ 十分な作業スペースを確保する。 ・ 十分な換気を設け安全に配慮する。 ・ 工具や材料が十分収納できるスペースを確保する。
	16	美術準備室	0.75	1	

機能	N O	室名	コマ数	室数	配慮事項
共通室	17	コンピューター室	3	1	・普通教室や図書室等、他の教室と連携した活用ができる配置とする。 ・ICT教育の発展に伴い、今後はサーバールームへ改修等フレキシブルな変化に対応できる仕様を検討する。
	18	図書室	3	1	・十分な収蔵スペースを確保する。 ・落ち着いて読書に親しめる工夫をする。 ・どの生徒も利用しやすい配置とする。 ・ICTと連携できる環境整備をする。
共通室	19	配膳室	0.5	2	・床に水を流さないドライシステムを基本とする。 ・作業の流れに配慮した室内レイアウトとする。 ・給食配送車の乗り入れのしやすい配置とする。
	20	生徒会室	0.5	1	・話し合いや作業の出来るスペースを確保する。
	21	相談室	0.5	2	・利用者のプライバシーに十分配慮した配置とする。
	22	通級指導室	0.5	1～2	・通常登校の困難な生徒指導や、相談室としても利用できるよう職員室に近い場所へ配置する。
管理諸室	23	校長室・応接室	1	1	・学内の見通しを考慮した配置とする。 ・会議、応接のスペースを設ける。
	24	職員室	1	3	・学内の見通しを考慮した配置とする。 ・校務処理を支援するOA機器の整備や執務スペースを確保する。
	25	職員休憩スペース・給湯室	0.5	1	・職員室廻りに配置する。
	26	事務室	0.25	1	・校長室、職員室に隣接し機能的な連携の取れる配置とする。
	27	用務員室・用具室	0.5	1	・休憩や作業の出来るスペースを確保する。
	28	職員更衣室	0.2	1	・職員室廻りに配置する。
	29	職員トイレ	0.25	1	・職員室廻りに配置する。
	30	会議室	1.5	1	・投影機器等を配備して視聴覚室としての利用も検討し、ペーパーレスで効率的な会議が行えるよう整備する。
	31	職員教材室・資料室	0.25	1	・職員室の資料保管ができるスペースを確保する。
	32	印刷室	0.3	1	・各種機器が配置でき、作業スペースも確保できるよう整備する。
	33	放送室	0.3	1	・騒音や遮音に配慮した内装とする。 ・グラウンドの見通しが容易な配置とする。
保健部門	34	保健室	1	1	・個人の健康記録などを保管するスペースをプライバシーに配慮して確保する。
	35	カウンセリング室	0.25	1	・保健室附属室として、相談ができる部屋を整備する。 ・感染症対策として隔離室としても利用できる。
地域関係	36	ミーティングルーム (PTA室等)	0.5	1	・話し合いや作業の出来るスペースを確保する。
	14	学校歴照会コーナー	0.25	1	・トロフィー等を展示できるコーナーを整備する。

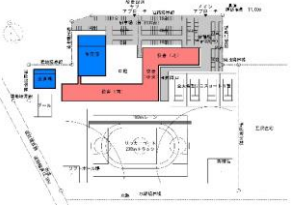
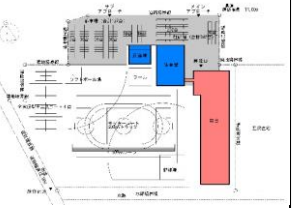
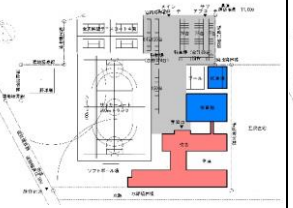
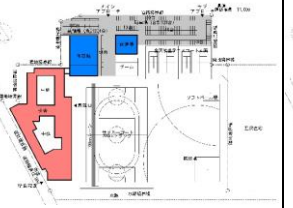
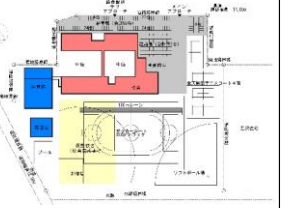
機能	NO	室名	コマ数	室数	配慮事項
供用部	15	トイレ・多目的トイレ・更衣室・水飲み場・EV・昇降口・廊下・倉庫 等			・トイレは各普通教室エリアと特別教室エリアに設ける。 ・多目的トイレはフロア毎に1か所設ける。 ・その他計画内容により適宜配置する。
運動施設・外部	17	体育館 武道場			・冷暖房や換気に配慮した設備計画を検討する。 ・災害時の対応を考慮した検討をする。
	18	プール			・外部からの視線に配慮した配置・計画とする。 ・メンテナンスのしやすい仕様を採用する。 ・災害時にプールの水を利用（トイレ用排水として活用など）する事などを考慮する。
運動施設・外部	19	グラウンド			・授業や部活動、イベント等で活動しやすい十分な面積と形状とする。 ・良好な排水性を確保する。 ・メンテナンス性を考慮した植栽を配置する。
	20	外構			・校門廻りや駐輪・駐車スペースは広く利用しやすい形状とする。 ・歩行者の安全に配慮したアプローチ動線とする。 ・マンホールトイレやかまどベンチ、太陽光発電対応の街路灯など、災害時対応に配慮する。
	20	防災備蓄室 防災資機材倉庫 等			・災害時の利用勝手を考慮した配置とする。

4-2. 配置計画の検討（配置・工期・コスト）

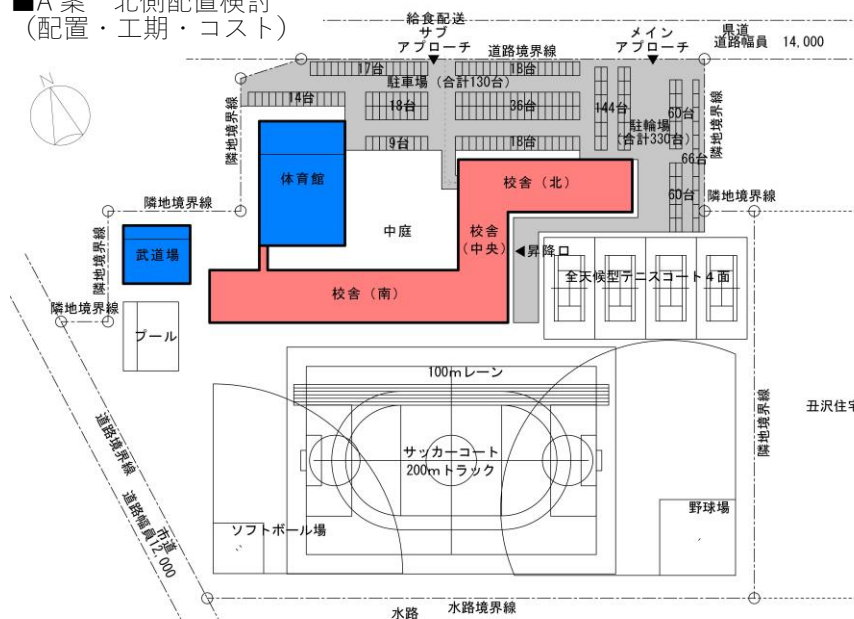
本計画は、現在の敷地内での改築計画であり、正方形に近い比較的偏りの少ない敷地形状であることから、改築後の建物配置を各方位側へ寄せたA～D案と、仮設校舎を設置した場合のE案を合わせた計5案を比較検討する。この時点の検討は、案を特定するものではなく、今後の基本設計・実施設計で更なる検討を行ったうえで決定するものとする。

各案の校舎計画規模は、中学校の設置基準（本校生徒数の場合約6,755㎡程度）から1.2倍程度までの大きさとし、体育館・武道場・プールの計画規模は各案で差異を設けず同規模として想定した。また、各案の共通的な配慮事項として、複雑な改築計画とはせず工事期間の短縮化を図るとともに、特に、校舎と体育館の供用開始を早めるなど、生徒・教職員に配慮した計画としている。各案の比較・評価においては評価項目を同列で評価し、参考で「◎、○、△」の3段階評価を提示しているが、評価項目の優先度により評価の幅は変動するものとする。

配置計画（土地利用）比較・評価 一覧表

評価項目		A案 北側配置		B案 東側配置		C案 南側配置		D案 西側配置		E案 北側配置+仮設校舎	
											
屋外動線・配置計画	1.アプローチ動線	メイン・サブ共に長い	△	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○	メイン・サブ共に長い	△	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○
	2.校舎-グラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎-体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎
	5.駐車スペースの確保	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	駐車スペース確保は現状程度。	◎	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎	駐車スペース確保は現状より若干多く確保。	○
グラウンド計画	1.グラウンド面積	約24,500確保。	○	約24,500㎡確保。	○	約23,600㎡確保。	○	約25,300㎡確保。	◎	約22,700㎡確保。	△
	2.グラウンド配置	日当り良好。	◎	日当り良好。	◎	日当り良好。	◎	日当り良好。	◎	日当り良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周囲への影響	1.敷地外への日影	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○	東側住宅地へ日影の影響がある。	○	東側住宅地へ日影の影響がある。	○	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響（校舎との関係）	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎	南・東側住宅地へ校舎との距離が近づく。	△	南側住宅地へ校舎の距離が近づく。	△	北西側住宅地へ校舎の距離が近づく。	○	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎
	3.グラウンドからの騒音	既存校舎と同程度。	○	校舎により東側住宅地への影響は軽減される。	◎	校舎により南側住宅地への影響は軽減される。	◎	校舎により北西側住宅地への影響は軽減される。	◎	既存校舎と同程度。	○
その他	1.建設工期	供用開始：校舎R7、体育館R8 全体工事期間：R5～R9まで	○	供用開始：校舎R7、体育館R6前期 全体工事期間：R5～R9まで	○	供用開始：校舎R6後期、体育館R6 全体工事期間：R5～R8まで	◎	供用開始：校舎R7、体育館R8中期 全体工事期間：R5～R9中期まで	△	供用開始：校舎R7中期、体育館R6後期 全体工事期間：R5～R8中期まで	◎
	2.建設コスト	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	比較としては中間値程度。	◎	仮設校舎設置による大幅なコスト増。	△
	3.建設難易度	校舎の解体・新設がラップする為、難易度は比較的高い。	△	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎	当初市の想定計画と同程度。	○	新設と解体がラップせず、仮設校舎により安全性も確保され難易度は低い。	◎

■A案 北側配置検討
(配置・工期・コスト)



〈計画規模〉
校舎：7,000㎡
体育館：1,800㎡
武道場：500㎡
プール：25m×8コース
グラウンド：24,500㎡
外構：6,300㎡

【概算工事費】

・校舎改築：21.5億
・体育館改築：4.5億
・武道場改築：1.3億
・プール改築：1.5億
・グラウンド整備：4.2億
・外構整備：0.5億

合計：33.5億

【配置計画 比較表】

屋 外 動 線 ・ 配 置 計 画	1.アプローチ動線	メイン・サブ共に長い	△
	2.校舎－グラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎－体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎
	5.駐車スペースの確保	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎
グ ラ ウ ン ド 計 画	1.グラウンド面積	約24,500確保。	○
	2.グラウンド配置	日当たり良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周 圍 へ の 影 響	1.敷地外への日影	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響（校舎との関係）	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎
	3.グラウンドからの騒音	既存校舎と同程度。	○
そ の 他	1.建設工期	供用開始：校舎R7、体育館R8 全体工事期間：R5～R9まで	○
	2.建設コスト	比較としては中間値程度。	◎
	3.建設難易度	校舎の解体・新設がラップする為、難易度は比較的高い。	△

【配置計画 工程表】 ★→供用開始時期

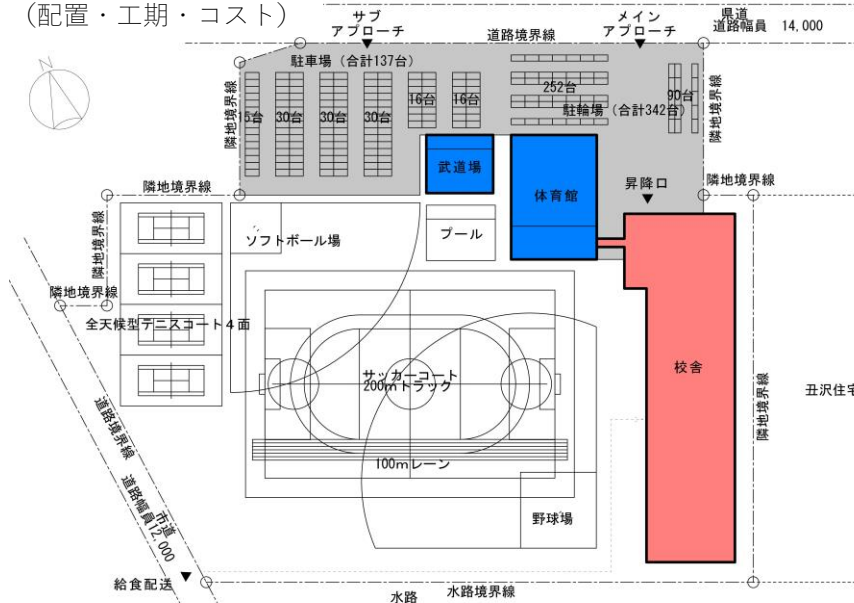
		R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	備考
設計 各種検討	基本構想・基本計画										
	地質調査・敷地測量										
	基本設計・実施設計										
改築	校舎改築										21か月
	体育館改築										12か月
	武道場改築										6か月
	プール改築										6か月
解体	校舎解体										6か月
	体育館解体										3か月
	武道場解体										3か月
	プール解体										3か月
	テニスコート解体										3か月
外部整備	グラウンド整備										12か月
	外構整備										12か月

〈工事フロー〉
既存プール・
テニスコート解体
↓
校舎（北・南）改築
↓
既存校舎解体
↓
校舎（中央）増築
体育館・武道場・プ
ール改築
↓
既存体育館・
武道場解体
↓
グラウンド・外構整備

【A案 配置計画考察】

現在の校舎同様、敷地の北側に配置することで平面プラン検討において南側採光の教室がレイアウトし易く、グラウンド面積・駐車場面積も比較的多く確保できる為バランスの取れた配置案となる。校舎の改築と解体期間がラップする時期があり、建設難易度が比較的高い事がデメリットとなる。

■B案 東側配置検討
(配置・工期・コスト)



〈計画規模〉
校舎：8,400㎡
体育館：1,800㎡
武道場：500㎡
プール：25m×8コース
グラウンド：24,500㎡
外構：8,200㎡

【概算工事費】

・校舎改築：23.5億
・体育館改築：4.5億
・武道場改築：1.3億
・プール改築：1.5億
・グラウンド整備：4.2億
・外構整備：0.7億

合計：35.7億

【配置計画 工程表】 ★→供用開始時期

		R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	備考
設計 各種検討	基本構想・基本計画										
	地質調査・敷地測量										
	基本設計・実施設計										
改築	校舎改築										21か月
	体育館改築										12か月
	武道場改築										6か月
	プール改築										6か月
解体	校舎解体										6か月
	体育館解体										3か月
	武道場解体										3か月
	プール解体										3か月
	テニスコート解体										3か月
外部整備	グラウンド整備										12か月
	外構整備										12か月

〈工事フロー〉

既存プール・
テニスコート解体
↓
校舎改築
体育館改築
↓
既存体育館解体
↓
既存校舎解体
↓
武道場・プール
改築
↓
武道場解体
↓
グラウンド・外構整備

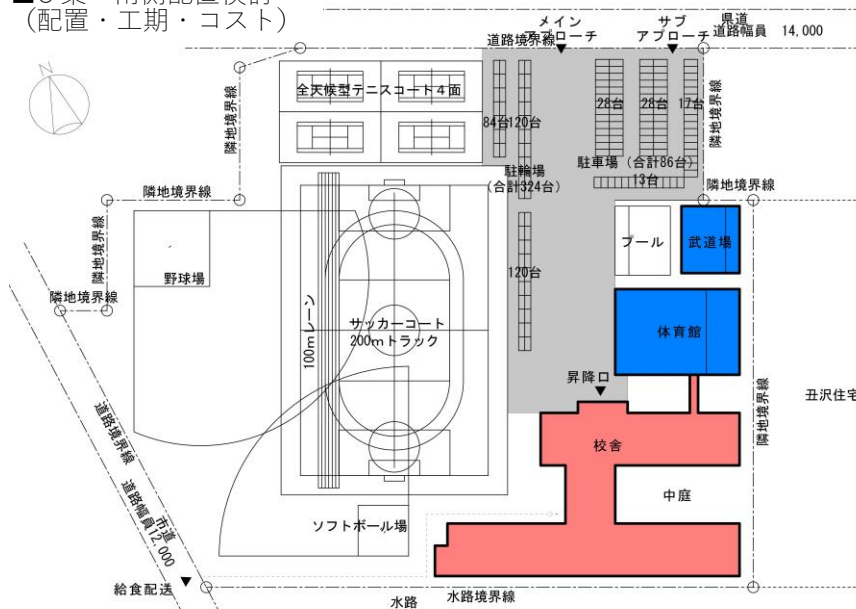
【配置計画 比較表】

屋 外 動 線 ・ 配 置 計 画	1.アプローチ動線	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○
	2.校舎ーグラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎ー体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△
	5.駐車スペースの確保	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎
グ ラ ウ ン ド 計 画	1.グラウンド面積	約24,500㎡確保。	○
	2.グラウンド配置	日当たり良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周 囲 へ の 影 響	1.敷地外への日影	東側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響（校舎との関係）	南・東側住宅地へ校舎との距離が近づく。	△
	3.グラウンドからの騒音	校舎により東側住宅地への影響は軽減される。	◎
そ の 他	1.建設工期	供用開始：校舎R7、体育館R6前期 全体工事期間：R5～R9まで	○
	2.建設コスト	比較としては中間値程度。	◎
	3.建設難易度	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎

【B案 配置計画考察】

工事開始時に校舎新設の支障となる建物が少ない東側に配置することで校舎の供用開始が比較的早く実現できる。また、新設と解体場所が離れている為建設難易度は比較的低い。南北に伸びる配置の為、教室の南側採光がとりずらく平面プラン検討が困難。

■C案 南側配置検討
(配置・工期・コスト)



〈計画規模〉
校舎：7,500㎡
体育館：1,800㎡
武道場：500㎡
プール：25m×8コース
グラウンド：23,600㎡
外構：7,300㎡

【概算工事費】

・校舎改築：21.0億
・体育館改築：4.5億
・武道場改築：1.3億
・プール改築：1.5億
・グラウンド整備：4.0億
・外構整備：0.6億

合計：32.9億

【配置計画 工程表】 ★→供用開始時期

		R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	備考
設計 各種検討	基本構想・基本計画										
	地質調査・敷地測量										
	基本設計・実施設計										
改築	校舎改築										21か月
	体育館改築										12か月
	武道場改築										6か月
	プール改築										6か月
解体	校舎解体										6か月
	体育館解体										3か月
	武道場解体										3か月
	プール解体										3か月
外部整備	テニスコート解体										3か月
	グラウンド整備										12か月
	外構整備										12か月

〈工事フロー〉
既存プール・
テニスコート解体
↓
校舎改築
体育館改築
↓
武道場・プール
改築
↓
既存体育館・
武道場解体
↓
既存校舎解体
↓
グラウンド・外構整備

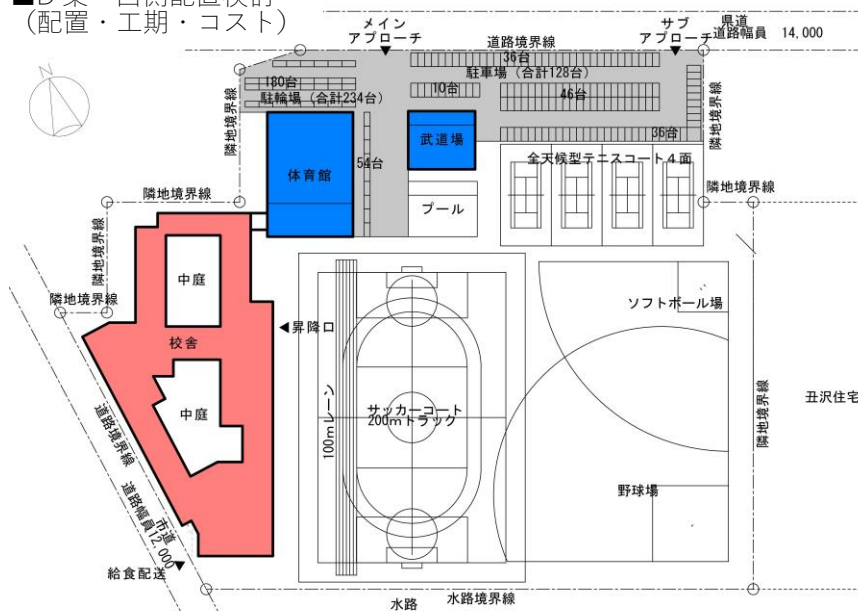
【配置計画 比較表】

屋 外 動 線 ・ 配 置 計 画	1.アプローチ動線	メイン・サブ共に長い	△
	2.校舎-グラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎-体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎
	5.駐車スペースの確保	駐車スペース確保は現状程度。	◎
グ ラ ウ ン ド 計 画	1.グラウンド面積	約23,600㎡確保。	○
	2.グラウンド配置	日当たり良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周 圍 へ の 影 響	1.敷地外への日影	東側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響（校舎との関係）	南側住宅地へ校舎の距離が近づく。	△
	3.グラウンドからの騒音	校舎により南側住宅地への影響は軽減される。	◎
そ の 他	1.建設工期	供用開始：校舎R6後期、体育館R6 全体工事期間：R5～R8まで	◎
	2.建設コスト	比較としては中間値程度。	◎
	3.建設難易度	新設と解体がラップしない為、難易度は低い。	◎

【C案 配置計画考察】

敷地南側は主要建物を新設する位置に殆ど支障となる建物が少ない為、工期が最も短い計画が可能となる。北側のメイン道路からは動線が長くなる事、南側住居側への圧迫感等、今の学校環境からは大きな変化となる。また、駐車スペースの確保については課題が残る。

■D案 西側配置検討
(配置・工期・コスト)



〈計画規模〉
校舎：8,500㎡
体育館：1,800㎡
武道場：500㎡
プール：25m×8コース
グラウンド：25,300㎡
外構：5,500㎡

【概算工事費】

・校舎改築：23.8億
・体育館改築：4.5億
・武道場改築：1.3億
・プール改築：1.5億
・グラウンド整備：4.3億
・外構整備：0.4億

合計：35.8億

【配置計画 工程表】 ★→供用開始時期

		R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	備考
設計 各種検討	基本構想・基本計画										
	地質調査・敷地測量										
	基本設計・実施設計										
改築	校舎改築										21か月
	体育館改築										12か月
	武道場改築										6か月
	プール改築										6か月
解体	校舎解体										1+6か月
	体育館解体										3か月
	武道場解体										3か月
	プール解体										3か月
	テニスコート解体										3か月
外部整備	グラウンド整備										12か月
	外構整備										12か月

〈工事フロー〉
既存校舎一部
(コンピュータ室) 解体
↓
校舎改築
↓
既存校舎解体
↓
体育館・武道場・
プール改築
↓
既存武道場・プール・
テニスコート解体
↓
既存体育館解体
↓
グラウンド・外構整備

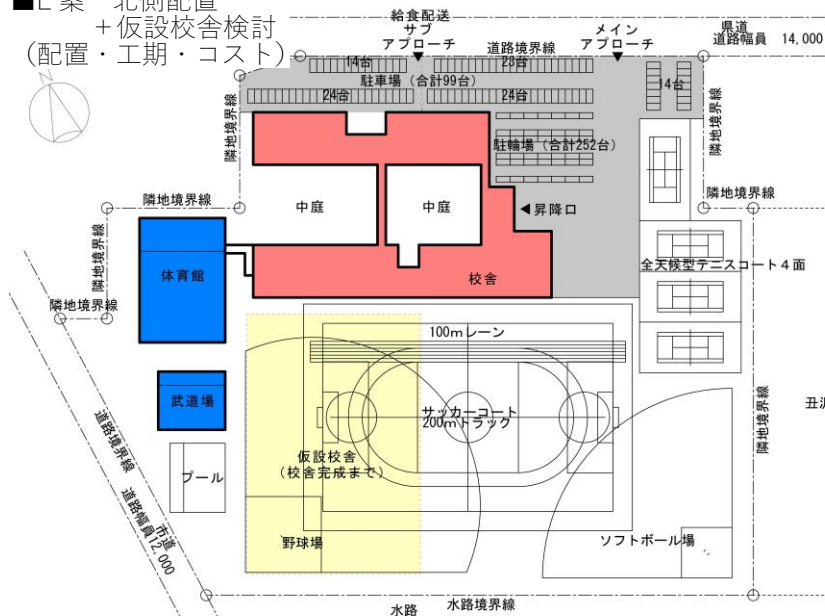
【配置計画 比較表】

屋 外 動 線 ・ 配 置 計 画	1.アプローチ動線	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○
	2.校舎-グラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎-体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	南北に伸びる配置の為、南側に面する教室配置が不利。	△
	5.駐車スペースの確保	現状よりも十分なスペースが確保されている。	◎
グ ラ ウ ン ド 計 画	1.グラウンド面積	約25,300㎡確保。	◎
	2.グラウンド配置	日当たり良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周 圍 へ の 影 響	1.敷地外への日影	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響 (校舎との関係)	北西側住宅地へ校舎の距離が近づく。	○
	3.グラウンドからの騒音	校舎により北西側住宅地への影響は軽減される。	◎
そ の 他	1.建設工期	供用開始：校舎R7、体育館R8中期 全体工事期間：R5～R9中期まで	△
	2.建設コスト	比較としては中間値程度。	◎
	3.建設難易度	当初市の想定計画と同程度。	○

【D案 配置計画考察】

敷地西側の一部不正形の部分を活用した校舎の配置計画とすることで、グラウンド面積や駐車スペースを十分に確保できる。南北に伸びる配置の為、教室の南側採光がとりづらい。また、建てて壊して建てて壊しての工程になる為、工期は比較的長期となる。

■E案 北側配置
+仮設校舎検討
(配置・工期・コスト)



〈計画規模〉
校舎：7,600㎡
体育館：1,800㎡
武道場：500㎡
プール：25m×8コース
グラウンド：22,700㎡
外構：6,400㎡

【概算工事費】
・校舎改築：21.0億
・体育館改築：4.5億
・武道場改築：1.3億
・プール改築：1.5億
・グラウンド整備：3.9億
・外構整備：0.5億
・仮設校舎：13.5億
合計：46.2億

【配置計画 工程表】 ★→供用開始時期

		R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	備考
設計 各種検討	基本構想・基本計画										
	地質調査・敷地測量										
	基本設計・実施設計										
改築	校舎改築(仮設校舎含)										21か月(仮設30か月)
	体育館改築										12か月
	武道場改築										6か月
	プール改築										6か月
解体	校舎解体										6か月
	体育館解体										3か月
	武道場解体										3か月
	プール解体										3か月
	テニスコート解体										3か月
外部整備	グラウンド整備										12か月
	外構整備										12か月

〈工事フロー〉
仮設校舎設置
↓
既存校舎・
テニスコート解体
↓
校舎・体育館・武道場
プール改築
↓
既存体育館・武道場
プール解体
↓
仮設校舎撤去
↓
グラウンド・外構整備

【配置計画 比較表】

屋 外 動 線 ・ 配 置 計 画	1.アプローチ動線	メイン動線は短い。サブ動線は長い	○
	2.校舎-グラウンド間動線	昇降口からすぐグラウンドに出ることができる。	◎
	3.校舎-体育館・武道場動線	校舎に近い配置で動線は短い	◎
	4.南側採光の確保	東西方向へ伸びる配置の為、南側への教室配置が優位。	◎
	5.駐車スペースの確保	駐車スペース確保は現状より若干多く確保。	○
グ ラ ウ ン ド 計 画	1.グラウンド面積	約22,700㎡確保。	△
	2.グラウンド配置	日当たり良好。	◎
	3.グラウンド形状	正形で活用しやすい。	◎
	4.トラック・直線	200mトラック、100mトラックを整備。	◎
周 囲 へ の 影 響	1.敷地外への日影	北西側住宅地へ日影の影響がある。	○
	2.視線の影響(校舎との関係)	既存校舎同様、住宅地への影響は少ない。	◎
	3.グラウンドからの騒音	既存校舎と同程度。	○
そ の 他	1.建設工期	供用開始：校舎R7中期、体育館R6後期 全体工事期間：R5～R8中期まで	◎
	2.建設コスト	仮設校舎設置による大幅なコスト増。	△
	3.建設難易度	新設と解体がラップせず、仮設校舎により安全性も確保され難易度は低い。	◎

【E案 配置計画考察】

仮設校舎を設置することで平面計画の柔軟性が最も高い。ただし、仮設校舎の設置コストが他の案に比べ大幅にかかる事が最大の課題。

4－3．平面計画の検討

各配置案に対する校舎の平面プランを提示する。

詳細な平面プランの検討については、配置案の方向性が固まる段階を経て検討を進める為ここでは1例として提示する。

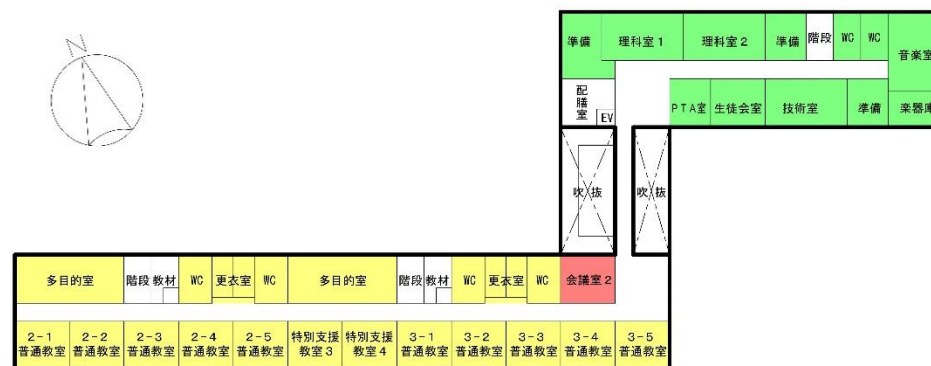
■A 案北側配置 平面プラン

【校舎面積】

1階 3,933 ㎡ 2階 3,675 ㎡ 合計 7,609 ㎡
(基準面積 6,755 の約 1.12 倍)

【平面プランの特徴】

- ・ 南側採光の教室配置となり、明るい普通教室となる。
- ・ 職員室等の管理諸室からランドへの視線が通る。
- ・ 普通教室と特別教室を繋ぐ昇降口は上部が吹抜けとなり開放性のある空間となる。
- ・ 校舎と体育館で囲まれた中庭を整備する。
- ・ 計画面積にまだ余裕がある。



2階平面図



1階平面図

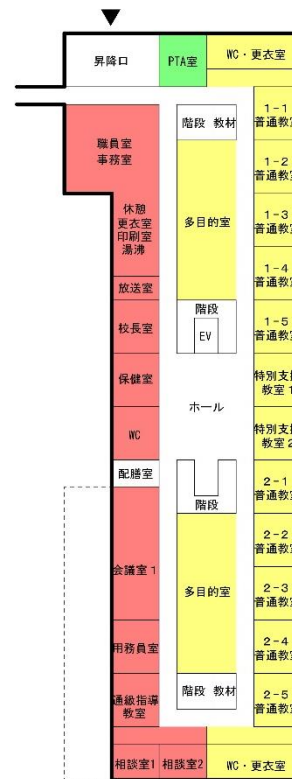
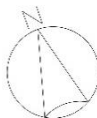
■B 案東側配置 平面プラン

【校舎面積】

1階 4,248 m² 2階 4,104 m² 合計 8,352 m²
 (基準面積 6,755 の約 1.23 倍)

【平面プランの特徴】

- ・ 他案に比べ多目的室を 1.5 倍の広さを確保。
- ・ 職員室等の管理諸室からグラウンドへの視線が通る。
- ・ 中央のホールや吹抜けを中心としたゆとりある平面計画。



1 階平面図



2 階平面図

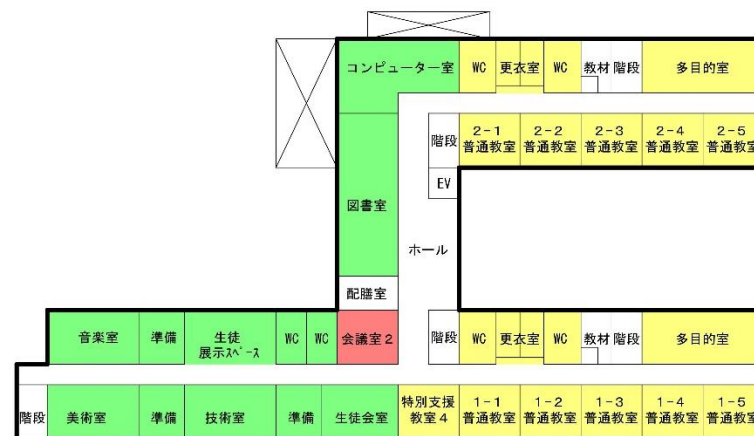
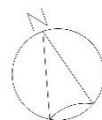
■C 案南側配置 平面プラン

【校舎面積】

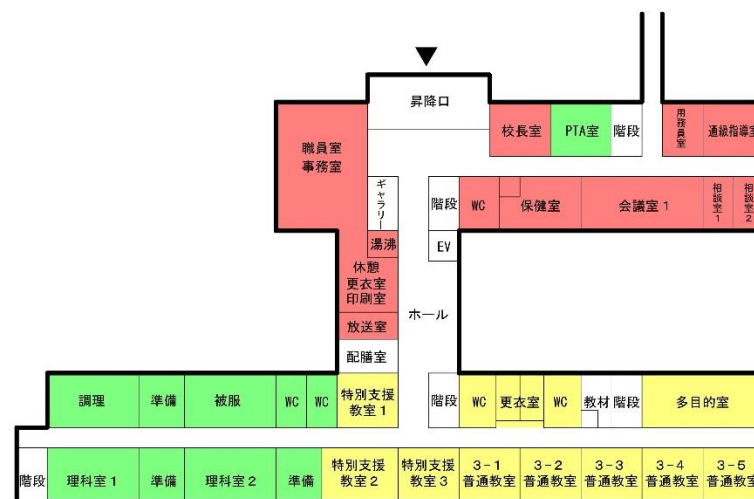
1階 3,876 m² 2階 3,633 m² 合計 7,539 m²
 (基準面積 6,755 の約 1.11 倍)

【平面プランの特徴】

- ・ 南側採光の教室配置となり、明るい普通教室となる。
- ・ 職員室等の管理諸室からグラウンドへの視線が通る。
- ・ 中庭を確保しグラウンド以外の多目的な利用が可能。
- ・ 建物中央のアクセスし易い場所へ図書室を配置。
- ・ 計画面積にまだ余裕がある。



2階平面図



1階平面図

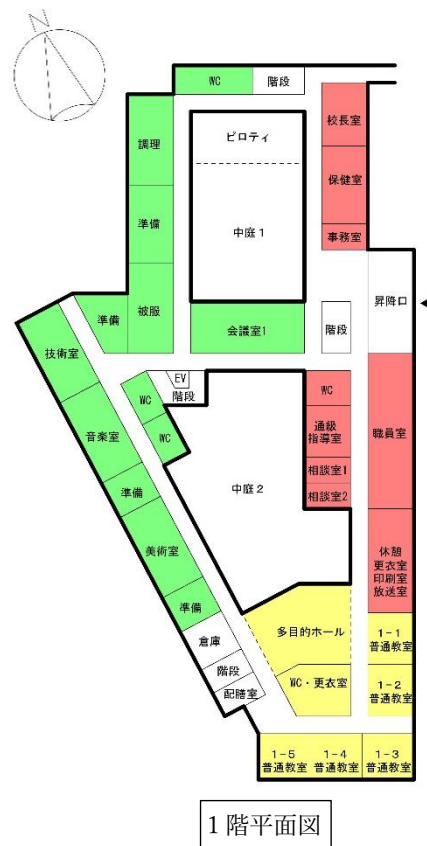
■D 案西側配置 平面プラン

【校舎面積】

1階 4,260 m² 2階 4,310 m² 合計 8,570 m²
 (基準面積 6,755 の約 1.26 倍)

【平面プランの特徴】

- ・ 2ヶ所の中庭を中心とした回遊性のある平面計画。
- ・ 職員室等の管理諸室からグランドへの視線が通る。
- ・ 建物中央のアクセスしやすい場所へ図書室を配置。



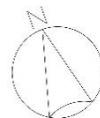
■E 案北側配置+仮設校舎 平面プラン

【校舎面積】

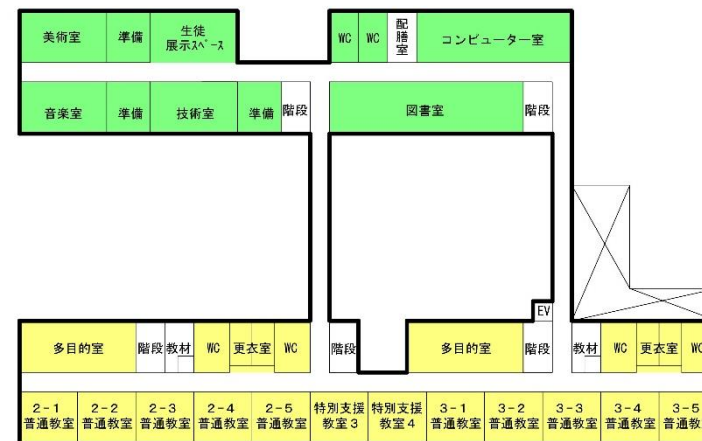
1階 3,933 m² 2階 3,675 m² 合計 7,608 m²
(基準面積 6,755 の約 1.12 倍)

【平面プランの特徴】

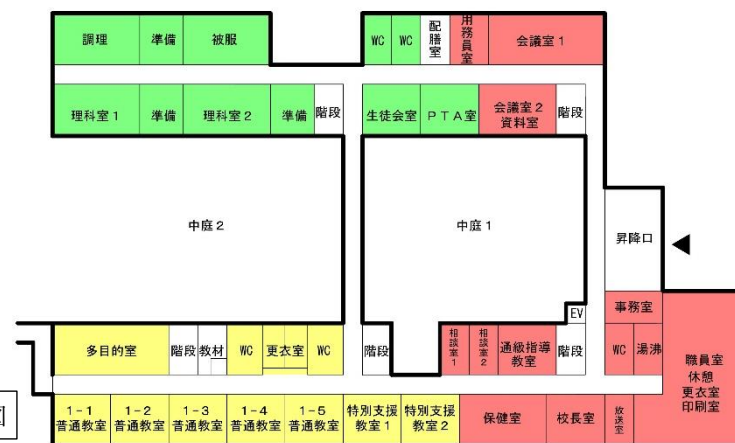
- ・ 南側採光の教室配置となり、明るい普通教室となる。
- ・ 職員室等の管理諸室からグランドへの視線が通る。
- ・ 2ヶ所の大きな中庭を確保し多様な利用や潤いを感じる平面計画。
- ・ 計画面積にまだ余裕がある。



2階平面図



1階平面図



4-4. 検討結果・今後の課題

4-1～4-3の提示条件について議論を行った第4回検討委員会の結果を踏まえ、今後の基本設計・実施設計における課題を示す。

① 施設の機能規模について

- ・ 普通教室の数については、現状生徒数及び令和6年度推計では15クラス（1クラス約30名程度）という設定に不足は無いと考えられるが、少人数指導やICT活用等の学習環境の変化、水沢中学校周辺の居住環境の変化等、今後の動向を踏まえた室数や教室自体の大きさ、教室の利用方法等具体的な検討が必要となる。
- ・ 様々な理由で登校が困難となる生徒達が回復途中で別室登校ができるような動線や教室の確保等、現代の子供たちを取り巻く複雑な環境に対応できる計画が求められる。
- ・ 多目的スペースについては、学年単位で集まれることを想定すると1学年2クラス分程度のスペースでは不足ではないか。
- ・ 体育館は現状よりも大きい物を望まれており今後の設計では考慮すべき重要な事項である。周辺校でも採用されているように、武道場と一体化させることも考慮し、狭い敷地の有効活用にも繋がる計画を検討する必要がある。

② 配置・平面計画について

- ・ 配置各案については、北側に校舎を配置し、南側にグラウンドがあるというのが利用上のメリットが大きい。課題は既存の校舎や体育館を考慮した工事計画となる。東・南・西側に寄せる案は工事期間短縮等のメリットはあるものの、採光や通風、プランの柔軟性を考えると改築後の利用がってにデメリットが大きい。仮設校舎設置する案は設置コストがあまりにも大きく、今回の計画においては予算上適当では無いと考えられる。
- ・ 2階建て、体育館と武道場別棟の案で統一して比較しているが、計画規模に対して総じてグラウンドが狭い。体育館と武道場の一体化、校舎の3階建てとする計画が望ましいのではないか。
- ・ 建物の配置はシンプルで一体利用できる配置が使い勝手がよく管理上も良い。入り組んだ配置は冬季の除雪作業に支障がある。
- ・ 西風が強い地域の為、北側と西側に配置するL型形状の南部曲がり家のような配置や、それらを発展させて「心の字」を想起した校舎とするのも良いのではないか。

③ 水沢中学校の特徴を生かした計画について

- ・ 水沢中学校らしさをどう出すか、という点において地域の伝統文化を校舎に活かす事等を考え特色を出すと良いのではないか。例えば水沢の歴史ある祭りである「日

高火防祭り」の何かを多目的ホールや象徴的な場所に設ける等。また、校舎建設する際に生徒達にも何か参画させるというのも良いのではないか。

- ・ 木材利用については、単に内装に使えば良いという物でも無く、奥州市の林業を取り巻く環境を子供たちが学べ地域の現状や特色など理念を反映させられると良い。

④ 災害時を想定した利用について

- ・ 災害時対応について、奥州市では一次避難所は地区センターとなり水沢中学校は二次避難所となっており、一時避難所で収容しきれない避難者の収容する役割を持っている。過去に学校に避難した事例は少ないものの、今後予想だにしない災害により学校も避難所として使われることも「有り得る」というスタンスで設計を進めるべきである。
- ・ 避難所としての機能を持たせると考えるならば、災害対応エリアと教育機能エリアをどう区切るかという視点をもった計画を検討する必要がある。
- ・ 避難所として活用される場合、畳敷きの部屋が必要ことや畳の備蓄等も考慮すべきではないか。